

宇宙基本計画改定に向けた横断的な論点

0. 状況認識

スタートアップ等による小型衛星コンステレーションの構築やアルテミス計画を含めた欧米や中国による月以遠の探査計画の進展等、諸外国や民間による宇宙活動・宇宙利用が拡大。ロシアによるウクライナ侵略を契機に安全保障を目的とした宇宙利用にも注目が集まっている。我が国を取り巻く安全保障環境が厳しさと不確実性を増す中、昨年末策定された新たな国家安全保障戦略等の中でも宇宙の安全保障に関する総合的な取組の強化が掲げられた。また、宇宙利用の拡大や、ロシアによるウクライナ侵略により、ロシアのロケットが使用できない状況を受け、世界的にロケット打上げの需給がひっ迫してきているほか、中国やロシアによる衛星破壊実験などの脅威や、デブリや人工衛星の増加による宇宙空間の混雑化といったリスクが、これまで以上に高まりつつあり、宇宙の安全で持続的な利用が課題となっている。次期宇宙基本計画は、このような大きな状況変化に対応できる10年計画とする必要があるのではないか。

1. 横断的な論点

- ① 我が国の技術・産業・人材基盤を持続的に維持発展させていくため、将来の宇宙利用像・出口を明確化し、必要となる基盤・プログラムを戦略的に見極めていく必要があるのではないか。
- ② 国際競争力を持つ企業を戦略的に育成・支援していくべきではないか。その際、将来の宇宙利用像を構想し、多分野に拡大する宇宙ソリューションの活用を推進することで、既存の宇宙産業の枠に囚われず、国内外市場を開拓していくべきではないか。
- ③ 安保・民生分野における将来の宇宙利用像や技術・産業・人材基盤の維持・発展に係る共通課題について、横断的に官民で議論を実施

すべきではないか。

- ④ 将来の宇宙利用像を見据えた、先端・基盤技術開発、商業化に向けた技術開発を推進すべきではないか。
- ⑤ 必要な宇宙活動を自前で行うことができる能力を保持(自立性の確保)するとともに、我が国の宇宙活動を支えるサプライチェーン断絶のリスクに備えること(自律性の強化)も重要ではないか。
- ⑥ 先端・基盤技術開発から、商業化に向けた民間企業の技術開発支援まで、宇宙開発の中核機関たる JAXA の役割・機能を効果的・効率的に強化していくことが必要ではないか。